

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のもので)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100433		
法人名	株式会社春風会		
事業所名	春風会かたおなみ2階ユニット		
所在地	和歌山県和歌山市和歌浦東4丁目3-51		
自己評価作成日	平成24年1月13日	評価結果市町村受理日	平成24年3月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3090100433&SCD=320&PCD=30
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会		
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F		
訪問調査日	平成24年2月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「仁慈絡歎」の理念の下、ご利用者の尊厳を守り、ここに集う人の「想い」を大切に平等な信頼の絆を深め、互いの「生きる力」を引き出す介護と援助を実践している。日々の職員の連携を図り情報を共有するために、全員参加のカンファレンスを月に2回実施して、インシデント報告やご入居者の情報交換をしている。「認知症介護の最前線」を目指してグループホームでテーマを決めて取り組んだ研究の成果を発表する研究研修発表会を毎年開催している。法人内はもちろん外部研修にも積極的に参加できるように勤務体制を配慮し、機会を確保している。ご近所やご家族の方々がいつでも訪問していただけるように開かれたグループホームであるように務め、地域の行事にご入居者と共に参加したり、ご家族をお誘いしての行事も開催して交流を図っている。

和歌浦湾に面し風光明媚な景色が一望できる位置にある。隣接するデイサービスも含めて「春風会かたおなみ」全体が一つの家として自治会にも加入して地域との交流がおこなわれている。近隣の住民との交流もみられ、届けられた旬の魚が食卓に上がることもある。訪問しやすい雰囲気なかで家族の思いに応えられるよう配慮し、要望には迅速な対応を心がけている。認知症介護や地域密着型サービスの理想に向けて研鑽を重ねており、研究発表で全国大会に出場する事にもなり、なお一層の励みとなっている。地域に受け入れられ、地域の拠点となり、入居者・家族も安心して過ごせる生活の場となるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	naiy
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム2階リビングに理念を掲げ、地域密着型サービス業務マニュアルにも掲載し、新任研修会でも「理念と実践」の研修をしてそれぞれの職員が共有できるよう取り組んでいる。	法人の理念「仁慈絡歎」に加え地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念を作っている。職員間で話し合って意義を確認し、地域生活の継続支援と事業所と地域の関係性を重視した理念を大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会回覧板をご入居者にも見ていただき、夏祭りや、一斉清掃日、防災訓練等にご入居者と共に参加している。	地域の行事などに入居者も共に参加し、散歩や買い物に出かける機会も多く持つようにしている。地域の人たちと挨拶を交わし、ふれあう機会も多く、近隣住民が立ち寄ってくれることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会回覧板をご入居者にも見ていただき、夏祭りや、一斉清掃日、防災訓練等にご入居者と共に参加している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月ごとに開催して職員、ご入居者、ご家族、ご近所、知見者等に参加していただき、意見交換させていただいたことはカンファレンスで報告し実践してサービスの向上に活かしている。	2ヶ月ごとに開催し、職員・入居者・家族・民生委員・地区役員、等の参加があり、ホームの近況報告等を行うとともに出席者からの質問・意見・要望を受けそれを実践しサービスの向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の入居者数、待機者数の報告をし、グループホーム便りを送付している。和歌浦支所には運営推進会議のご案内状と便りをお届けしている。必要に応じオムツの支給等のご相談をしたり、訪問調査をお願いしている。	毎月、事業所から報告やグループホーム便りをファックスで送っている。手続き上必要な時以外は市の担当窓口とのかかわりは薄い。	報告書やホーム便りを直接手渡し話をする事で事業所の運営や実情を知ってもらう機会となるような働きかけに期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンス、新任研修、現任研修、グループホームの研究発表のテーマにも「身体拘束をしないケア」に取り組み、理解を深めながら日々実践している。	徹底した拘束の排除に取り組み、実践研究を全国大会でも発表する予定である。家族から「つなぎ服」の希望があったが使用しない旨説明し理解を得た。エレベーターの鍵は使用しているが入居者が心理的圧迫感を感じないよう職員の意識と配慮を徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記と同じく職員間で虐待についてのアンケートをしたり、インシデント報告を自主的に書き、虐待の芽を摘む不適切なケアの見直しを職員一同で意識をもって取り組んでいる。		

【事業所名】春風会 かたおなみ ユニット名:2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員が権利擁護に関する研修会に参加して学ぶ機会を作り、ご入居者への支援に役立っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約、改定等においては十分にご入居者やご家族等に説明を行い、ご理解を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様、ご家族からの意見要望は、訪室時、面会時に拝聴し職員に周知すると共に、見直しや改善策を話し合い運営に反映させている。定期的な会議や、懇談会にも参加していただいている。	家族の訪問時や茶話会等顔を合わせる機会を多く作り、常に問いかけながら、何でも云って貰える雰囲気を作っている。意見要望などは全職員が周知し、見直しや改善策を話し合い運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月2回のカンファレンスや個人面談で職員の運営に関する意見や提案を聞く機会を作り、反映させている。	職員の意見は各ユニットリーダーが管理者に伝え運営に反映させている。屋外に出るのに混雑するスロープの増設や感染症予防のための加湿器の設置、トイレの棚の位置など、職員の意見を積極的に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の主管者会議を開催し状況を把握しており、管理者や職員との個々の面談をして意見を聞き職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内はもちろん、外部研修にも積極的に参加できるように勤務体制に配慮し、情報提供や機会を確保している。研修の内容や学びをカンファレンスで発表して職場に活用するよう周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症支援協会の会員であり、ネットワークを広げ、研修会や講演会、学習会への参加をして質の向上を目指した取り組みをしている。		

【事業所名】春風会 かたおなみ ユニット名:2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の想いや希望、困っていることを傾聴し、安心して暮らしていただけるように、気軽に話しやすい雰囲気作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が面会に来られた時は、必ず顔を合わせ、ご入居者の近況報告をして、何かお困りやご相談はありませんか?とこちらから声をおかけするように、心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族が必要とされている支援について、アセスメントを行い、適切なサービスが提供出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1ユニットを自宅と考え、職員とご入居者が共に生活をする者同士という気持ちで一緒に過ごせる関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居者のご家族との連絡を密にして、共に情報を共有して協力しながら支えていけるような関係を築くように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やお友達との電話の取次ぎや、ご家族との外食や買い物支援、週末や盆・お正月の帰省の支援に努めている。	永年勤めた仕事場の周辺を訪ねたり、よく利用した喫茶店にホームの友人達と一緒にいき、懐かしい店主との昔話で思い出に浸るなど、関係継続と新しい交流が生まれる支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者の関係を見極め、一緒に食事や雑談が出来る環境整備をし、相性の悪い方との座席や時間の調整をしてご入居者が孤立しないような支援に努めている。		

【事業所名】春風会 かたおなみ ユニット名:2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅に戻られた方には担当ケアマネを通して情報を聞いたり連絡を取るようになっている。病院や施設の方にはご家族様に経過を聞いたり、面会などの支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	好みの献立を取り入れたり、外出の希望に対応している。散髪や毛染め、行きつけの店など本人の意向の把握に努めている。	その人の思いを大切に、言葉が出にくい場合も、思いを汲みとれるよう、接し方を工夫している。こだわりの強い人の意向に沿って共用トイレに個人の愛用する専用ペーパーホルダーを設置する等の配慮もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	若い頃から今までの生活状況や職業、交流関係、趣味や特技など会話の中から聴き、馴染みの暮らし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日勤、夜勤職員の申し送りによりご入居者の1日の過ごし方や心身状況を情報共有し、部屋の担当職員によりセンター方式を活用して一人ひとりの有する力等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月のカンファレンスで職員からご入居者の気づきや課題を提案し、ご家族からの意見を傾聴しそれを反映して介護支援専門員の資格を持つ計画作成担当者が介護計画を作成している。	変化があった時や対応困難な場合は毎月のカンファレンスで話し合い、現状に即した計画の作成に努めている。アセスメントと課題、モニタリングとケア内容の変化等の関係が明確でない部分もみられる。	アセスメントに基づき、誰が見てもわかりやすい課題と目標、それに対する具体的方法としてのケアプランの作成に期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者記録や特記事項の申し送りを記入して情報の共有をして実践や介護計画の見直しにかつようしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスとの交流、家族の希望やご本人のニーズに応じた自費での、リハビリやマッサージ通院介助などの支援をしている。		

【事業所名】春風会 かたおなみ ユニット名:2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で豊かな暮らしができるようにボランティア、理髪店、図書館、スーパー、介護タクシーなど多くの地域資源を把握できるように努め活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの主治医に往診依頼をしている。ご希望があれば協力医療機関へご紹介をし、往診していただけるような関係を築いている。	本人や家族の希望するかかりつけ医での受診を支援している。通常の受診は家族で行うこととしている。希望があれば協力医療機関による定期往診が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご入居者の体調変化や気づきを看護職員に伝え主治医の適切な指示や受診ができるように協働している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の担当医師や看護師との情報交換のためのカンファレンスをして早期退院が出来るように努める。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にターミナルについてのご家族様の意向を伺い、グループホームでの支援のあり方について説明をして方針を共有し、協力して取り組めるように努めている。	看護師がスタッフとして入る様になって介護職の不安感が軽減されたこともあり、重度化やターミナルにも取り組む方針である。医療的な処置が必要となった時には家族と話し合い、事業所ができる支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し急変時に対応すべき指導している。AEDをレンタルして使い方を学ぶためにDVDを職員で鑑賞している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害対策委員会を設置し定期的に避難訓練や備蓄の準備をしているところであるが、夜勤帯での非難訓練はできておらず、全職員が身につけるまでには至っていない。	地域の防災訓練には入居者も参加し、地域との協力関係も築きつつある。ホームの前が海なので防災に対する職員の意識は高いが、今はまだ、非常の誘導態勢をどうするか模索中である。	夜間等、さまざまな場面を想定した訓練が望まれる。日常生活の中で無理なく取り入れて訓練を重ね、安心できる避難体制を作り上げることを期待する。

【事業所名】春風会 かたおなみ ユニット名:2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導や入浴介助、更衣については可能な限り同姓の職員での介助をしており、言葉かけや対応については人格の尊重をしつつ支援するように心がけている。	入居者の動きや態度をそれとなく見守り、困った様子や判らなくなっている時には、さりげない手助けや言葉かけでサポートして一人ひとりの誇りを傷つけないような対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着たい服装やおやつ希望、外出先等をご本人に確認し、選択や自己決定ができるように声かけや対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活パターンはある程度決まっているがその日の体調や気分によって変更が可能であるように柔軟な対応をしている。その人のペースを大切に支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた服装やおしゃれができるように助言したり、お手伝いをしている。必要な時は買い物に同行したり、希望に応じカットやパーマ、毛染めなどの外出支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、調理の下準備をさせていただいたり、盛り付け、食器洗いなどのお手伝いを職員と一緒に取り組んでいる。	2階ユニットは準備や片付けも共にできる人が多く、職員と楽しく食事ができる雰囲気となっている。その日の献立を好まない人に好物の一品をさりげなく出して笑顔を誘い機嫌よく食事できるような配慮もみられる。	1階ユニットでは重度化により、食事の介助や見守りが必要な入居者も多くなってきたが、より快適に食事できるようなケアの工夫と皆で食を楽しむ雰囲気作りが望まれる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に量や形態を配慮し糖尿食やカロリー減に対応している。水分補給としてお茶やコーヒーだけでなく、ゆず茶やヤクルトなど好みの飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に口腔ケアの支援をしており、歯磨きの代わりに、洗口液でうがいをし頂く方もいる。歯ブラシ・コップは毎日殺菌消毒している。		

【事業所名】春風会 かたおなみ ユニット名:2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄支援をしており、尿意、便意のない方には定時誘導をしてトイレで排泄をして頂けるようにしている。排便については排便表に記入して排便リズムを把握するように努めている。夜間は必要に応じてPWCを使用している。	自尊心に配慮して、トイレでの排泄を大切に支援している。本人の様子から、身体機能に応じて手を差しのべたり歩行介助をしている。また、排便表でパターンを把握して排泄ケアを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の対応としては、水分量の確認や、献立、食材の工夫をしている。排便リズムを把握して主治医の指示で薬による排便コントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限りご入居者の希望にあわせた入浴支援をしている。寝る前に入浴されたいと希望される方には夜勤者が対応することもある。	入浴時の介助は同性で行い、入浴の時間等は入居者の希望に合わせ、夜間の入浴にも対応している。入浴を拒否する入居者と近くの銭湯へ行く等の柔軟な支援もみられる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠を促すために寝具や空調整備をしている。本人の希望に応じ午睡や起床時間についても柔軟な対応に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬管理ファイルを作成して、副作用や用法などが解るようにしている。薬の仕分けは看護職員がして、服用時は複数の職員で名前、日付等を確認してからご入居者に服薬介助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除機かけ、水やり、調理準備、配膳、食材購入の同行など出来る役割を持って取り組んでいただいている。季節の行事や、誕生日会等には、ご希望に応じて嗜好品を取り入れ、ノンアルコールビールなども喜ばれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご希望に応じて散髪、買い物、墓参り等の外出支援をしている。ご家族にも協力を得てドライブ等に行かれてる。	近くに公園や神社があり、外出しやすい天候のときには出来るだけ短時間の散歩だけでも出かけるよう支援している。図書館・美容院・好みの買い物等、家族の協力も得て支援している。	歩行が困難になっている人や、外出の意思表示が見られない人も部屋に閉じこもりがちにならず、屋外に出て気分転換したり、体を動かしたりできるよう、更なる取り組みが望まれる

【事業所名】春風会 かたおなみ ユニット名:2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理ができる方にはお金を所持していただき、買い物や通院費などの支払いはご自分でしていただくように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族やご親戚に自分で電話をしたり、暑中見舞いや年賀状を出したりしている。番号がわからない方や電話をかけられない方には職員が代行の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を出すために四季の花を活けたり、快適にお暮らしいただけるように空調管理や床暖房の設置をしている。気持ちよく使っていたけようにトイレや浴室、台所は適宜ゴミの回収や掃除をして清潔を心がけている。	キッチン是对面式で、調理の音や匂いを感じることができる。食堂兼居間にはソファも置かれ2階にはゆったりした空間があるが、1階はスペースが限られている。景観を望める窓から続く廊下部分には広いスペースがあるが活用されていない。	廊下部分のスペースも活用し、入居者が思い思いに過ごせる空間作りが望まれる。居心地良く温かみのある住まいとしての共用空間の雰囲気作りに期待する。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの位置や食事のテーブルの配置を工夫して気のあったご入居者が楽しく過ごせるように工夫しているが、十分な空間を提供することはできていない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	日頃から使用されている馴染みのタンスや寝具、鏡台などを持ってきていただいている。ご希望で仏壇や趣味のものをご持参されている。ご家族と相談しながら布団の交換や加湿器の設置をしている。	それぞれの入居者が居心地良く過ごせるよう、寝具や筆筒等馴染みの物が持ち込まれている。畳の生活を好む場合は畳を敷き、希望に沿って落ち着ける部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じて部屋からトイレまでの手すりを設置したり、各部屋にはセンサーマットを敷き、居室内での立ち上がりや移動が安全かつ自立して行えるように支援している。		